

# われら/ 企業市民

有限会社  
シサム工房



## お買い物とは、 どんな社会に一票を投じるかということ

シサム工房は1999年から「フェアトレード」※に取り組む企業。発展途上国の生産者との公正な取引を行い、人々の幸せを最優先する活動を続けています。フェアトレードを通して私たち消費者にできることは何か？ 副代表の人見とも子さんにお話を伺いました。

※フェアトレード…開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。「作る人(生産者)」の暮らしや文化をよく知る「つなぐ人(NGO)」を介して「使う人(消費者)」につなぐことで、国際協力関係を実現する。



ひとみとも子さん

### Q フェアトレードとの出会いと、 事業の始まりを教えてください。

学生時代、研究でタイの山岳地帯にある二つの村を訪れました。最初の村では年端もいかない少女たちが人身取引され、その親たちは麻薬の蔓延により無気力な生活を送っていました。その惨状を目にして「私にはいったい何ができるんだろう？」と、自分の無力を痛感したものです。一方、もう一つの村で見たのはまるで違う光景でした。そこでは女性たちが刺繍ポーチを手工業とし、東京にあるボランティア団体と取引をしていたんです。女性たちがいきいきと働き、ビジネス方針について会議を開き、議論している姿に深く感銘を受けました。この違いは何だろう？：そう思ったことが私自身のフェアトレードに対する関心の第一歩です。この経験から、人身取引という「悪意のつながり」ではなく、フェアトレードという「善意のつながり」で何かできるかもしれないと考え、帰国後、彼女たちと公正な取引をしていた日本の国際協力団体に紹介してもらったフェアトレードショップで働きました。

その後、大学院の先輩でもあった水野泰平氏(同社代表)とともに1999年にショップを京都大学の近くにオープンさせたのが、シサム工房の始まりです。

### Q シサム工房の フェアトレードの特徴は？

フェアトレードとはつまり、利潤よりも公平性を重んじ、生産者の生活の向上を目指す貿易です。消費者が公正な価格を通して商品を購入することにより、作り手である途上国の人々の自立支援につなげていくことが目的。その上で私たちが大切にしているのは、「人々の幸せ」です。

たとえば取引をしているインドのクリエイティブ・ハンドクラフトは、ムンバイの巨大スラムにあるフェアトレードNGOで、200人以上の女性たちが縫製作業を行っています。女性たちが働く場所と賃金を提供するのはもちろんですが、団体には現地のソーシャルワーカーが常駐し、彼女たちをサポートしています。パートナーからのDV相談・対応、健康診断の推奨、預金口座の開設や、計画的に貯蓄を行う方法、暴漢に襲われたときの護身術まで、彼女たちが人間らしく自尊心を持って生きられるように支えているのです。いわば職場を超えた、よりよく生きるためのコミュニティです。

私たちのフェアトレードの特徴は、必ずこうした現地のNGOを介して仕事をする点。地域のことや働いている人々の状況などを良く知るNGOと仕事をする点で、ムンバイの例のように働いている人々の「幸せ」に貢献できるのです。取引するNGOは人々の暮らしに貢献していることを証明できるWF